

# 中学歴史プリント（過去問類似）

## 平安時代

名前

得点

/8

**問1** 10世紀から11世紀にかけての日本では、唐の文化を吸収しつつ、日本の風土や生活、感情に合わせた「国風文化」が発達しました。この時期に宮廷に仕えた女性たちが著した文学作品の説明として、最も適切なものを選択肢から選びなさい。（2018年 岡山公立入試 類似）

- 清少納言が、宮廷生活での経験や自然の美しさを鋭い観察眼で書き留めた、随筆の『枕草子』
- 紫式部が、貴族の和歌を分類・整理して編纂した、日本最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』
- 本居宣長が、日本古来の精神を明らかにするために古代の神話を研究してまとめた『古事記伝』
- 千利休が、茶室という限られた空間の中で精神的な交流を重んじる「わび茶」を大成させた記録

**問2** 平安時代後期に行われた「院政」の説明として、当時の政治の仕組みを正しく述べているものはどれですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）

- 天皇が位を退いて上皇となり、摂政や関白の力を抑えて政治の実権を握った。
- 山城国の国人や農民たちが集結し、守護大名の勢力を追い出して自治を行った。
- 徳川氏が全国の諸大名を統制するため、領地と江戸を一年おきに往復させた。
- 藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）となり、摂政や関白の職を独占して政治を動かした。

**問3** 平安時代中期に、女性による優れた物語や随筆が数多く生まれた理由として最も適切な説明はどれですか。（2017年 香川公立入試 類似）

- かな文字が考案され、日常の感情や出来事を細やかに表現できるようになったため
- 遣唐使によって唐の最新の印刷技術が日本に導入され、書籍の出版が盛んになったため
- 仏教の普及により、寺院が女子教育の場として全国に広がったため
- 武士が政治の実権を握り、質実剛健な文化を奨励したため

**問4** 平安時代初期、遣唐使として唐へ渡って仏教を学び、帰国後に比叡山に延暦寺を建立して天台宗を広めた僧侶は誰ですか。（2024年 山形公立入試 類似）

- 最澄
- 空海
- 行基
- 鑑真

**問5** 平安時代末期の外交と社会に関する記述として、正しいものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）

- 平清盛は大輪田泊を整備し、宋から輸入された貨幣が国内に流通するきっかけを作った。
- 藤原頼通が遣唐使を廃止したことで、日本独自の国風文化が大きく発展した。
- 北条泰時が大輪田泊を拠点に貿易を行い、得られた利益で御成敗式目を制定した。
- 織田信長が大輪田泊を修築したことで、堺の商人と連携した自由な取引が始まった。

**問6** 光仁天皇の後に桓武天皇が即位し、元号が延暦に改められた時期の出来事として、東北地方において朝廷の支配を拡大させるために行われたことは何ですか。（2020年 岡山公立入試 類似）

- 坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じ、蝦夷と呼ばれた人々の抵抗を抑えた
- 平将門の乱を鎮圧するために、関東地方へ大規模な軍隊を派遣した
- 防人を配置して、唐や新羅による侵攻に備えて北方の守りを固めた
- 奥州藤原氏を登用し、平泉を中心に平和な地域社会を築かせた

**問7** 8世紀末にあたる794年、桓武天皇が都を平安京へと移した主な理由として、当時の政治的背景に基づいた説明として適切なものはどれですか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

- 仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため
- 平氏による武家政権を樹立し、海外貿易を活発にする拠点とするため
- 元（モンゴル帝国）による襲来に備え、防御に適した内陸部に都を構えるため
- キリスト教の布教を制限し、幕府による全国支配を強固にするため

**問8** 平安時代初期、遣唐使として唐へ渡った僧侶たちが帰国後に開いた新しい仏教について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 徳島公立入試 類似）

- 最澄が比叡山を拠点として天台宗を広め、空海が高野山を拠点として真言宗を広めた。
- 最澄が高野山を拠点として真言宗を広め、空海が比叡山を拠点として天台宗を広めた。
- 空海が比叡山を拠点として浄土宗を広め、最澄が高野山を拠点として禅宗を広めた。
- 最澄が鎌倉で天台宗を広め、空海が室町で真言宗を広めた。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 清少納言が、宮廷生活での経験や自然の美しさを鋭い観察眼で書き留めた、随筆の『枕草子』	平安時代中期、かな文字の普及にともない、女性によるすぐれた文学作品が多く生まれました。清少納言による『枕草子』は、その代表的な随筆（エッセイ）です。選択肢にある『古今和歌集』は紀貫之らによって編纂されたものであり、本居宣長は江戸時代の国学者、千利休は安土桃山時代の茶人です。
問2	<b>答え 1</b> 天皇が位を退いて上皇となり、摂政や関白の力を抑えて政治の実権を握った。	白河上皇による院政の開始は、藤原氏が代々続けてきた摂関政治を打破する目的がありました。上皇は独自の役所を設置し、自分の意志を伝える「院宣（いんぜん）」などを用いて強力な権限を行使しました。選択肢にある「山城国」の事例は室町時代の「山城国一揆」、「徳川氏」の事例は江戸時代の「参勤交代」を指しており、時代背景が異なります。
問3	<b>答え 1</b> かな文字が考案され、日常の感情や出来事を細やかに表現できるようになったため	漢字の形を崩して作られた「かな文字」が広まったことで、漢字の習得が難しかった当時の女性たちも、日本語の微妙なニュアンスを自由に書き記せるようになりました。これが、紫式部や清少納言などの宮廷女性による文学作品の繁栄につながり、国風文化の大きな特徴となりました。
問4	<b>答え 1</b> 最澄	唐での厳しい修行を終えて帰国した後、現在の滋賀県と京都府の境に位置する比叡山を拠点として、新しい仏教である天台宗を確立しました。この延暦寺は、当時の都であった平安京の北東（鬼門）に位置し、国家を守護する重要な役割を担いました。
問5	<b>答え 1</b> 平清盛は大輪田泊を整備し、宋から輸入された貨幣が国内に流通するきっかけを作った。	平清盛が行った日宋貿易では、日本から金や水銀などが輸出される一方、宋からは陶磁器や書籍、そして「宋銭」と呼ばれる銅銭が大量に輸入されました。この宋銭が日本国内で流通したことにより、それまでの物々交換中心の経済から、貨幣を用いる経済への変化が促されました。
問6	<b>答え 1</b> 坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じ、蝦夷と呼ばれた人々の抵抗を抑えた	桓武天皇の時代には、東北地方への勢力拡大が積極的に進められました。坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命され、朝廷に抵抗していた蝦夷のリーダーであるアテルイを降伏させるなど、東北北部まで支配を広げました。なお、光仁天皇から桓武天皇への代わり目での改元は、新しい天皇の即位（代始改元）を示す歴史的な区切りでもあります。
問7	<b>答え 1</b> 仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため	奈良時代（8世紀の大半）は、平城京を中心に仏教を厚く保護する政治が行われましたが、次第に東大寺などの僧侶が政治に強く関与し、天皇の権威を脅かすようになりました。桓武天皇はこうした仏教勢力の影響を断ち切り、政治を刷新して天皇の力を回復させるために、784年の長岡京遷都を経て、794年に平安京へと都を移しました。
問8	<b>答え 1</b> 最澄が比叡山を拠点として天台宗を広め、空海が高野山を拠点として真言宗を広めた。	平安時代初期、最澄と空海は共に遣唐使として唐に渡り、新しい仏教の教えを持ち帰りました。最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を、空海は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗をそれぞれ開き、当時の貴族を中心に厚い信仰を集めました。これらは山の中に寺院を構えて修行する「山岳仏教」としての特徴を持っています。